

平成25年度 第3回新宿区産業振興会議 議事要旨

【日 時】 平成25年9月6日（金） 午後6時～8時

【場 所】 B I Z新宿（区立産業会館） 多目的ホール

【出席者】 委 員：植田、河藤、松尾、下吹越、前田、志村、加藤、富田、酒井、北村、坂倉各委員

事務局：加賀美地域文化部長、中川産業振興課長、黒澤産業振興係長、橋本文化観光課長、菊地文化観光係長、
久野主任主事、後藤産業創造プランナー

【欠席者】 川名、益田各委員

【傍聴者】 なし

【配布資料】 省略

【内 容】

1 開会

2 委員委嘱

3 区長あいさつ（要旨）

- ・新宿のまちは、西新宿のビジネス街、新宿駅を中心とした大型の商業施設や商業集積、粋で歴史のある神楽坂や四谷、多文化共生のまち大久保、学生の多い高田馬場、緑濃い住宅地の落合、いろいろな地域が多様な顔を持っている。
- ・新宿は、住んで働いて学んで憩い楽しむという都市の機能をバランスよく持ったまちであり、新宿が内藤新宿という宿場のまちから立ち上がり、四谷や牛込は江戸のころより都市としての歴史を持ったまちであり、昔から人々が行きかう、交流ということが、大きなキーワードにもなっている。常に時代の先端を走るものが生まれてきているところだと思っている。
- ・新宿のまちは、地場産業としての染色や印刷製本といった事業の歴史を持っていることと併せて、多くの方々においていただいてまちが成り立っており、「ビジターズ産業」が非常に活力をもたらしている。「ビジターズ産業」のまちとしての新宿がどのように活発な経済活動を生んで、地域社会全体の活性化に広げていくべきか、区の産業に携わる皆様方から、広い視野で、またこれまでの見識から、活発にご議論いただきたい。

4 会長の選出

新宿区産業振興会議規則第4条の規定に基づき、互選により植田委員を会長として選出した。

5 会長あいさつ（要旨）

- ・新宿は、産業振興基本条例ができ、この産業振興会議ができて、第1期の議論を通じ、様々な芽が出てきていると思っているが、もっと可能性があるのではないかと感じている。新宿は経済活動が非常に盛んであり、企業数も多いので、いろいろなネットワークや刺激、いろいろな仕組みをつくっていくと、もっと発展する可能性があるのではないかと改めて強く感じている。
- ・産業振興会議の第1期では、多岐に亘り非常にいい議論がされた。その中には具体的に形をつくっていったものもあり、まだ考えていかなければいけないこと、これから検討を深めていかなければいけないことが多く残された。第2期の課題は第1期に比べると非常に明確になっている。これから2年間、長丁場ではあるがよろしく願いたい。

6 副会長の指名

新宿区産業振興会議規則第4条の規定に基づき、会長が河藤委員および川名委員を副会長に指名した。

7 委員自己紹介

8 諮 問

区長が産業振興会議に諮問を行った。

諮問事項：新宿区の特性を活かした産業振興施策のあり方について

9 議 事

(1) 第1期報告書について

資料4に基づき、第1期報告書について事務局より説明した。

(2) 新宿区の概要

資料5に基づき、新宿区の概要について事務局より説明した。

(3) 第2期の進め方

資料6および資料7に基づき、第2期の進め方について事務局より説明した。

10 主な発言内容

○専門部会テーマ（案）について

- ・テーマ案である「中小企業」を単体で取り上げると、地域の特性を活かし、企業の利益をどのように考えていくのかがあまりにも漠然としているように思う。もう一つのテーマ案である「ビジターズ産業」の中で、中小企業はどういう形で事業展開していくのかも大きな柱になってくると考えると、中小企業単体に何かをするというよりは、外から人を呼ぶ地域というところをもう少し掘り下げることによって、より具体的な内容になるのではないかと。問題のテーマ設定が両方とも大きすぎて、第1期の提案である、具体的なまた実践的なプロジェクトに結び付かないのではないかと。
- ・「ビジターズ産業」と「中小企業」を分けて考えるのではなく、人を呼び込むという「ビジターズ産業」の中で、中小企業のビジネスマッチングやネットワークの構築など、実践的なことを考えてはどうか。現状の中小企業支援施策が本当にこれでいいのか、仮説検証などを行って、施策の有効性を検討する必要があるのではないかと。
- ・専門部会のテーマ案の2つは漠然としているので、もう少しピンポイントで考え、「中小企業」に関しては、例えばネットワークや人材育成といった個別のテーマに焦点をあてることも必要ではないかということと、産業と観光やビジターズ、ビジターを呼び込んでくるということに関して、新宿にはどういった可能性があるのかということから入って、議論していくことが必要なのではないかと。
- ・専門部会のテーマを検討するにあたり、「新宿の特性」についての共通認識をもう少し深めていく必要があるだろう。産業という点から見た新宿の強み弱みを示すデータを事務局で作成し、それを活用して共通認識として持ったらどうか。

○第2期の検討事項

- ・今回の諮問の内容である「新宿区の特性を活かした」というものは、産業全体について特性をどう活かしていくかということと、それを観光というところとどう結び付けて、どう活かしていくかというこのことの、大きな二つ課題があるのではないかと。新宿区の特性を活かすために、新宿区の産業資源や地域資源にどういうものがあるのかということ、まずきちんと掘り起こしていくということ、そしてそれを共通認識として持つということが大事なのではないかと。それをどう結び付けていくのかということで、観光につながり、そこには文化や歴史が当然入ってくると思う。例えば「地域ブランド戦略」という一つの基本的な視点を持って、それを創造することをとらえていくことも考えられる。第2期のテーマの切り口として、まず新宿に何があるのかを、第1期で掘り起こした部分も含めて、もう一度確認をしていく必要があるのではないかと。
- ・文化歴史もしくは観光の資源と商店街とがどう重なっているのか、商店街の地図と観光マップを一致させ、委員の共通認識を得てから議論を進めたい。
- ・新宿と他の地域を比べてみて、新宿はどういうところに産業振興しなければいけないのか、切羽詰まったものに直面しているのか、そういう観点で一度考えてみる必要があるだろう。新宿区の特徴は何といっても地価が高く、一般的に考えて、創業の場には新宿という地を選んで、採算に合うようなことはほぼ考えられない。新宿の強みを活かしてという前に、新宿ではものすごくコストが高くて、なかなか創業段階では厳しい状況を認識しなければならない。地価の高さ、世界一の乗降客数、昼間人口や夜間人口との差、強みと弱みをしっかりと認識をしていかないといけないのではないかと。

- ・新宿の地価は、上がっている場所もあるが、下がって安い場所もある。不動産の賃貸料の情報があると、新宿は高いといわれているが、安い場所もあることがわかり、創業する人も来るのではないかと。
- ・中小企業が今逼迫しているニーズは何かということと、それが支援策と乖離しているのか、いないのかを確認するフェイズがないと、この会議で何かが話されたというだけになるのではないかと。
- ・具体的に中小企業は何を求めているのかをもう少し掘り下げて、それに対してどうすべきかを議論、検討していく必要があるのではないかと。新宿は地域によっていろいろな特色がたくさんあり、地域ごとに考えていかないと、新宿全体で大括りしていても、なかなか括りきれない。一つの地区をモデル地区として考え、各地区の特徴を鮮明化させて、それをまとめて全体的に考えていくべきではないかと。
- ・実際に商売をしている者として、自分自身がどういう方向性を持っていくか、というのがとても重要だと思っている。それぞれの地区や企業が、そこをどう乗り越えていくかをピンポイントで提示して、どのように発展させ、方向性をつけていくのか。業界または企業、もしくは地区などで、モデル地区をつくって、考えていくのがいいのではないかと。
- ・ビジターズ産業については、焦点の一つとして大事だという意見が多かったが、これをどう深めていくのか、どう落とし込んでいくのかという視点が必要だろう。
- ・2年後に向けてどのような形で進めていくのか、新宿の特性を活かした産業づくり、産業支援、地域企業支援ということを考えていくうえでは何が必要なのか、検討しなくてはいけない課題をブレイクダウンして出していく必要がある。

○第2期の進め方

- ・議論すべきことや方策などを具体的にあげると、部会のテーマや関連する事項などがわかる。それに沿って2年後の答申に向け、スケジュールも含めた議論の筋道の下絵のようなものを示すと、効率的に議論できるのではないかと。
- ・第1期の報告書で、第2期に検討すべき事項というのが明確になっている。これだけでいいのかという議論はしなければいけないと思うが、専門部会として、例えば観光と一体化した産業振興を中心的な議題として検討する部会、ネットワークの構築や人材育成を中心に議論をする部会というように分けるのも一つの方法ではないかと。
- ・専門部会のテーマを2つに限定せず、専門部会のメンバーが少人数であっても、この2年間でいろいろなテーマの専門部会をたくさん作った方がいいと思う。

1 1 次回日程について（予定）

日 時：平成25年10月28日（月） 午後3時～5時

会 場：BIZ新宿 研修室A

1 2 閉 会